指定管理者制度導入施設の運営状況（令和７年度）

１．施設名等

施設名	大分県立総合文化センター(iichiko総合文化センター)	所在地	大分市高砂町２－３３
		電話番号	097-533-4000
		ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	https://emo.or.jp/
	大分県立美術館(OPAM)	所在地	大分市寿町２－１
		電話番号	097-533-4500
		ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	https://www.opam.jp/

２．指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名　称	公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団	県の所管部課（局・室）	企画振興部芸術文化振興課 TEL：097-506-2058
	所在地	大分市高砂町2－33		
	指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		

３．施設の概要

設置年月日	平成１０年８月１日　※大分県立総合文化センター
設置根拠	大分県立総合文化センターの設置及び管理に関する条例
設置目的	文化の創造と享受の場を提供することにより、県民の多様な文化活動を促進し、もって個性ある地域づくりと潤いのある生活の創造に寄与する。
事業内容	①センターの施設及び設備の利用に関すること ②音楽・演劇等芸術文化の鑑賞の機会を提供すること ③文化に関する情報を収集し、及び提供すること ④その他、センターの目的を達成するために必要な事業
施設内容	・iichikoグランシアタ（大ホール1,966席） ・iichiko音の泉ホール（中ホール　710席） ・iichikoアトリウムプラザ ・リハーサル室・練習室（9室）、映像小ホール、県民ギャラリー、会議室（6室） ・駐車場（295台）
使用料等	※終日利用の料金 ・iichikoグランシアタ：284,000円～511,100円 ・iichiko音の泉ホール：126,300円～227,400円 ・iichikoアトリウムプラザ：5,250円～41,900円 ・リハーサル室・練習室：3,570円～17,600円、映像小ホール：36,550円、 県民ギャラリー：9,400円～10,800円 ・会議室：13,750円～29,450円 ・駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、 営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円
閉館日	第２・第４月曜日及び年末年始（１２月２９日～１月３日）

設置年月日	平成２７年４月１日　※大分県立美術館
設置根拠	大分県立美術館設置及び管理に関する条例
設置目的	芸術文化創造の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、県民の感性や創造性を高め、文化を核とした地域力を高めるため。

事業内容	①美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。 ②美術品等に関する調査及び研究に関すること。 ③美術に関する情報の収集及び提供に関すること。 ④美術に関する講演会、講座等を開催すること。 ⑤美術館の施設及び設備の利用に関すること。 ⑥学校及び他の美術館、博物館その他の文化施設等との連携に関すること。 ⑦その他、美術館の目的を達成するために必要な事業。
施設内容	・１階　展示室A　アトリウム　ミュージアムショップ　モバイルカフェ ・２階　アトリエ　研修室　体験学習室　カフェ ・３階　展示室B　コレクション展示室 ・屋外駐車場（143台、24時間利用可）　地下駐車場（107台、8時～23時）
使用料等	・観覧料（コレクション展）：200円～300円 ・展示室A：9,420円～37,700円（終日） ・展示室B：9,420円～37,700円（終日） ・アトリウム：4,900円～19,300円（終日） ・研修室：1,200円（１時間） ・アトリエ：1,200円（１時間） ・駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、 営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円
閉館日	原則として無休（館内点検等のための臨時休館を除く）

４．目標指標の達成状況

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立総合文化センター】 ホール年間利用率(%) ※グランシアタと音の泉ホールの利用率の合計を2で除した数 ※令和5年度はホール利用休止のため目標値設定なし	令和4年度	87%	64%	73.6%
	令和5年度	－	－	－
	令和6年度	87%	88.5%	101.7%
	令和7年度	87%	87.1%	100.1%

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立総合文化センター】 来場者・利用者満足度(%) ※来場者満足度(鑑賞系)、参加者満足度(普及系)、施設利用者満足度(貸館)の合計を3で除した数 ※令和5年度はホール利用休止のため目標値設定なし	令和4年度	－	－	－
	令和5年度	－	－	－
	令和6年度	90%	90.1%	100.1%
	令和7年度	90%	91.3%	101.4%

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立美術館】 来館者数(人)	令和4年度	500,000	521,529	104.3%
	令和5年度	500,000	514,923	103.0%
	令和6年度	500,000	528,258	105.7%
	令和7年度	500,000	823,536	164.7%

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
【県立美術館】 来場者・利用者満足度(%) ※来場者満足度(企画展)、来場者満足度(コレクション展)、施設利用者満足度(貸館)の合計を3で除した数	令和3年度	－	－	－
	令和5年度	90%	94%	104.4%
	令和6年度	90%	95%	105.6%
	令和7年度	90%	93%	103.3%

５．施設の利用状況

【県立総合文化センター】

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数（人）	令和4年度	6,345	11,713	12,245	13,235	8,092	16,789	
	令和5年度	0	0	0	0	0	0	
	令和6年度	0	2,645	17,740	15,835	11,705	16,458	
	令和7年度	11,969	9,691	18,106	19,164	11,647	27,116	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和4年度	19,035	21,408	10,212	8,249	16,490	20,030	163,843
	令和5年度	0	0	0	0	0	0	0
	令和6年度	16,574	14,331	13,617	13,325	20,369	15,410	158,009
	令和7年度	16,640	22,665	16,971	12,751	19,771	13,759	200,250

【県立美術館】

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用者数（人）	令和4年度	30,405	34,791	21,064	20,901	39,655	24,005	
	令和5年度	21,916	27,656	43,689	59,079	84,130	31,719	
	令和6年度	25,988	35,826	37,314	53,957	78,807	37,526	
	令和7年度	40,843	48,293	48,133	58,984	124,243	62,736	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和4年度	35,324	38,711	92,751	118,170	31,233	34,519	521,529
	令和5年度	35,374	30,731	40,917	47,304	52,412	39,996	514,923
	令和6年度	39,841	40,148	38,843	45,135	49,046	45,827	528,258
	令和7年度	36,513	36,550	34,652	71,845	113,091	147,653	823,536

６．利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	※アンケート提出後記載 ichiko総合文化センター ①施設利用者アンケート（令和8年3月実施）：632団体（個人を含む）うち187団体回答（回収率29.6%） ②自主公演開催時に公演ごとにアンケートを実施 ③メール（専用アドレス）、電話、FAX、意見箱（館内6か所）による意見の受付 大分県立美術館 ①施設利用者アンケート（令和8年3月実施）：75団体うち42団体回答（回収率56.0%） ②施設来館者アンケート（随時）：館内3カ所にアンケート用紙を設置し、随時回収
	実施結果	iichiko総合文化センター ・施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると85.9%となり、高い評価を得ている。 ・施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「施設・設備が充実」「料金が適正」などである。 ・次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると83.6%であり、高い再利用意向を得ている。 ・職員の応対について、「やや満足」以上が77.8%という概ね良好な評価であった。 大分県立美術館 ・施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると97.7%となり、非常に高い評価を得ている。 ・施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「知名度が高い」「立地がよい」「施設・設備が充実」などである ・次回以降の再利用意向は「ぜひ使いたい」「使いたい」を合わせると92.2%であり、非常に高い再利用意向を得ている。 ・職員の応対について、「やや満足」以上が95.2%と、非常に高い評価を得ている。

利用者等からの主な意見・要望・苦情	左の対応状況
（センター）清掃の人の態度が悪く残念でした。	清掃委託業者を通じて社員に注意喚起を行った。 来館者と清掃員がバッティングしないよう、公演詳細スケジュール等の情報共有を強化した
（センター）ソファ・いすがもう少し欲しい。	現状90席分を確保している。避難導線や物販スペース確保のため、増設困難。
（センター）自動販売機をもっとたくさん置いたほうが良い。	令和7年7月に飲料自動販売機を新設。ホール内は飲食禁止であり、ホワイエの様子やお客様の声等効果を検証しているところ。
（センター）音の泉洋式トイレの増設を希望。	スペースの面から増設は困難。グランシアタトイレのような利便性の向上につながる改良を検討。
（美術館）貸館用の備品を充実させてほしい。	利用団体にヒアリングし、壁掛け用のワイヤーを100本、そのワイヤーを収めるラックを購入。利便性を高めた。
（美術館）アトリウムの活用を。	家族連れの来館を促すため、GW、夏休み、冬休みにワークショップやキッチンカー、コンサートなど多彩なイベントをアトリウムで実施した。また、キッズスペースでは木育玩具に加え折り紙を導入するなど、展覧会に合わせた柔軟な対応で、親しみやすい空間作りを実現した。
（美術館）ミュージアムショップで扱っているOPAMグッズが欲しい。	ミュージアムショップと連携し、10周年を記念した新たなオリジナルグッズ（収蔵品をデザインしたミネラルウォーター、ザ・キャビンカンパニーオリジナルデザインのお菓子缶、収蔵品トレーディングカード）を開発・販売した。
（美術館）子供も楽しめる展覧会を開催してほしい。	「チームラボ展」や「金曜ﾛｰﾄﾞｼｮｰとｼﾞﾌﾞﾘ展」の開催により家族連れの集客に成功したほか、『きらめく日本美術』展では「ぬいぐるみお泊り会」を企画。子供のぬいぐるみが鑑賞する様子をフォトブックにして届ける試みは、マスコミにも広く取り上げられ、大きな話題を呼んだ。
（美術館）展示作品の解説文について見やすいよう工夫してほしい。	全展覧会で「文字の拡大」と「平易な文章表現」を徹底したほか、『きらめく日本美術』展ではキャラクター化した館長による解説を掲示するなど独自の工夫を施し、誰もが親しみやすく見やすい展示環境を実現した。

７．サービス向上に係る主な取組内容

サービス提供体制の強化	① センターと美術館を一体的に管理するスケールメリットを発揮できるよう、 総務事務等の一元処理を行うとともに、警備、清掃、設備管理業務等についても共通の専門業者に委託し、クオリティ・コストの両面でレベルの高い一元管理を行った。 ② センター及び美術館のインフォメーション業務を同一業者に委託し連携強化を図り、センターと美術館の情報を共有し相互案内するとともに、美術館で開催される企画展チケットを販売することにより、施設全体のイメージアップと利用者の利便性の向上を図った。 ③ インターネットによる受付とクレジット決済導入を広報・周知し貸館の利便性を向上させた。 ④ 令和5年4月～6年5月の天井改修工事に伴うホール休止期間中に利用が途絶えた団体に対し、電話連絡等による営業活動を実施し、利用の回復・促進を図った。 ⑤ びび会員にセンター及び美術館事業についてのアンケートを実施し、センター公演で要望のあったバレエ公演を実施するなど会員のニーズを反映した。 ⑥ 駐車場については、センターと美術館それぞれの駐車状況に応じて相互利用を前提とした誘導を行った。 ⑦ 駐車場については、センターと美術館それぞれの駐車状況に応じて相互利用を前提とした誘導を行った。 ⑧ 美術館において、キッズスペースを拡充し、木育玩具や絵本、塗り絵などを設置し。気軽に訪れることのできる環境づくりに努めた。 ⑨ 貸展示室の施設利用者への便宜供与として、貸出可能施設の空き状況をホームページ等で公開するなど情報提供を行なうとともに、施設貸出予約システムの予約状況表示方法を改修し、問い合わせをしやすくすることで利用者の利便性の向上を図った。 ⑩ ミュージアムショップやミュージアムカフェの委託業者と、お客様ニーズの共有や新たなサービスの提供など議論を重ね、展覧会と連動した商品のラインナップの構築や、カフェメニューの開発を行い、サービスの向上を図った。
イベント等の充実（センター）	ホール機能の優位性を活かした芸術性やオリジナリティの高い自主公演の開催と、利用者に親しまれるiichiko総合文化センターづくり ① 県民ニーズを捉えたバランスの良い年間ラインナップの構築 ・オーケストラ、バレエ、オペラ、室内楽など多様なジャンルの公演を実施した。東京バレエ団の公演は、若い世代の入場者比率が高く近隣県から来場するなど好評を博し、令和3年度開催に続き満席となった。 また、今までセンターに来たことがない方々や各世代層にアプローチするために実施した九州交響楽団による交響組曲「ドラゴンクエストⅢ」の公演や、人気声優による「天正遣欧少年使節inメタバース」はSNSで話題が広がるなど、センターの認知度向上にも寄与した。 ② 地元アーティストや芸術団体等と協働した県内芸術レベルの向上に資する公演制作 ・「おんがくのアーティスト･イン･レジデンス」事業として、県出身で全国的に活躍する若手音楽家たちが、県内で活動する大分の若手音楽家たちと協働して公開リハーサルやアウトリーチを行い、県内の音楽レベルの向上に取り組んだ。 ③ 全国に発信できる公演や地元芸術団体等への支援 ・ 東京バレエ団やピアニスト反田恭平氏を招聘し全国に発信できる質の高い公演を実施したほか、「第25回別府アルゲリッチ音楽祭」や「日本フィルハーモニー交響楽団九州公演」を共催し支援した。また、アルメイダ生誕500周年を記念した音楽劇「語りと音楽でつづる宣教医アルメイダ」を制作・上演し大分県の歴史と文化を広く発信した。 ④ 芸術文化の拠点施設としての取組 ・「大分民俗芸能まつり」を開催し、神楽や杖踊りなどの県内各地の伝統芸能を紹介した。また、地域の物産を展示販売するコーナーを設置し祭りを演出した。 コロナ禍を契機に希薄化していた県内市町の公立文化施設や教育委員会との連携回復に向け、当センターが企画制作する公演や地域交流プログラムの協働開催を通じて、各機関との関係性を再構築し、連携の基盤づくりを進めた。 ⑤ 新たなファン層の拡大に資する普及啓発事業の充実 ・0歳から参加可能な未就学児鑑賞サポートコンサートを開催した。おむつ替えや授乳スペースを新設するなど家族全員が参加しやすい環境づくりに努めた。 手話通訳、要約筆記、字幕など、障害の有無にかかわらず舞台芸術を堪能できる「新・感・覚コンサート」を実施した。そのほか、小中学校、公民館等に出向きクラシック音楽の魅力を生演奏で提供するアウトリーチ活動を展開した。

イベント等の充実（美術館）	県民に親しまれる大分ならではの特色ある美術館づくり ① 「出会い」をテーマにした新たな視点に基づく県民ニーズを捉えた展覧会の開催・誘致 ・開館10周年を迎える節目の年として、感性を刺激する魅力ある企画展を年間を通じて幅広いジャンルから企画・開催した。 ・自主企画展として、4～6月に「大分と世界をつなぐ」をテーマに、ピカソのゲルニカ（タペストリー）等、全国各地の美術館から貴重な作品を借用し、「LINKS－大分と、世界と。」を開催 夏には、大正ロマンを代表する竹久夢二の「生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界」や、体験型のデジタルアート作品による展覧会「チームラボ 学ぶ！未来の遊園地と、花と共に生きる動物たち」を開催し、幅広い世代の美術館訪問を促進した。 11～1月には、「きらめく日本美術 1300年の至宝展」を開催し、中央の文化との交流の中で、独自に発展した大分の古美術の全貌を紹介した。 1月～3月スタジオジブリの作品をテーマにした「金曜ロードショーとジブリ展」を開催。スタジオジブリ作品が公開された当時の時代背景を振り返るとともに、その映画の世界に入り込めるような展示を展開した。県外からも多くのお客様が訪れ、最終入場者数は199，337人となり、開館以来の展覧会最高入場者数記録を達成した。 ② 大分の伝統と文化や、所蔵品の新たな魅力を紹介するコレクション展の開催とその展開 ⅰ 所蔵作品の展示 ・コレクション展Ⅰ（8月～11月）及びコレクション展Ⅱ（1月～3月）の2期にわたり開催した。コレクション展Ⅰでは、竹工芸を取り上げ、人間国宝岐部笙芳の作品等を紹介、コレクション展Ⅱでは、ピカソやシャガールの作品等を展示する「ボンジュール！フランス絵画とともに」、また大分ゆかりの工芸品にスポットをあてた「小鹿田の世界」を紹介した。 また、コレクション展Ⅰの期間中、「竹会 OITA BAMBOO ART 2025」（10月～11月）を3階ホワイエにおいて開催。竹で作られた楽器によるコンサートや竹かごづくりのワークショップなど関連イベントを実施した。 ⅱ 所蔵作品の管理 ・県の所蔵作品を財産台帳及び情報システムのデータベースにより適正に管理し、展示・保存環境維持のため、収蔵庫、展示室等の空調管理、記録を徹底。地震・火災対策として、免震装置や防火シャッター等の定期点検を実施し、万全な安全対策を講じた。 ⅲ 美術品収集 ・県が進める美術品収集事業について、専門的な観点から必要な調査等を連携して実施した。（令和7年度実績：寄贈13点、寄託14点） ⅳ 美術品の調査及び研究 ・美術・工芸、保存修復、教育普及等に関する調査研究を県と連携して実施。その成果を収集活動やコレクション展の企画に活用するとともに、職員の資質向上に繋げた。加えて「年報」「紀要」の編集や各種展覧会図録の編集に取り組んだ。 ③ 地域が芸術文化に触れる機会の提供 ・日田市のパトリア日田を会場に当館所蔵の収蔵品を展示した「地域美術館＠パトリア日田『ヨーロッパ美術紀行大分県立美術館コレクション』」を開催。期間中、学芸員のギャラリートークに加え、館長講演会も開催し、美術館に足を運ぶ機会の少ない方に対し、美術を楽しむ機会を提供した。 また、日田市内の小学生を対象に招待事業を展開。「地域へ出向く」「作品をみてもらう」を両立し、県民の鑑賞機会の拡大に努めた。 ④ アトリウムやカフェ・ミュージアムショップを中心とした、多様な価値観を提示する交流拠点としての取組を推進 ⅰ アトリウム等の活用 ・ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの期間中を中心に、家族連れの来館者増加を図るため、多彩なイベントを随時開催した。 ・キッズコーナーについては、アトリウム内3箇所にスペースを拡充し、木育玩具や絵本、塗り絵などを設置し、気軽に訪れることのできる環境づくりに努めた。 ⅱ 情報コーナー ・美術関連の図書や情報等を紹介する情報コーナーでは、企画展の内容に応じ定期的に書籍の入れ替え、4,000冊の蔵書を有効活用した。 ⅲ ミュージアムショップ ・日本連合警備株式会社（ミュージアムショップ屋号：PortoPorta）へ委託し、展覧会と連動した商品のラインナップを充実させ、キャッシュレス対応やECサイト運営、無人精算機を活用した満足度の高いサービスを提供した。 ・開館10周年を見据え収蔵品をモチーフにしたオリジナルグッズを順次展開した。収蔵品をパッケージにしたミネラルウォーターや、キャビンカンパニーデザインのオリジナルパッケージの大分銘菓の詰め合わせなどを販売を開始した。 ⅳ ミュージアムカフェ ・社会福祉法人博愛会（café Charité）に委託し、県産農林水産物を積極的に使用した高品質なメニューの提供や、企画展や季節に合わせた新規メニューの開発を行い、サービス向上を図った。 ・団体利用向けのパーティープラン作成やキャッシュレス決裁対応等を進め、お客さまニーズに答える運営を実施した。 ・夏休み期間中には、県の支援によりハーモニーランドコラボカフェを実施し、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめる空間を演出した。

８．管理に係る収支の状況

（単位：千円）

		令和4年度	令和5年度	令和6年度	**令和7年度**
収入額（A）		788,714	737,702	871,488	909,861
内訳	県からの委託料	515,838	606,104	600,701	586,508
	利用料金	258,284	125,485	265,609	316,314
	雑収入	14,592	6,113	5,178	7,039
支出額（B）		807,642	684,994	873,083	913,223
内訳	人件費	209,113	189,153	229,617	245,491
	維持管理費	2,014	2,825	1,573	1,774
	事業費	571,071	492,620	616,349	640,414
	iichikoパートナーシップ履行事業費	24,344	0	24,444	24,444
	サービス改善提案事業費	1,100	396	1,100	1,100
収支差額（A－B）		−18,928	52,708	−1,595	−3,362

９．施設使用料等の収入状況

【県立総合文化センター】

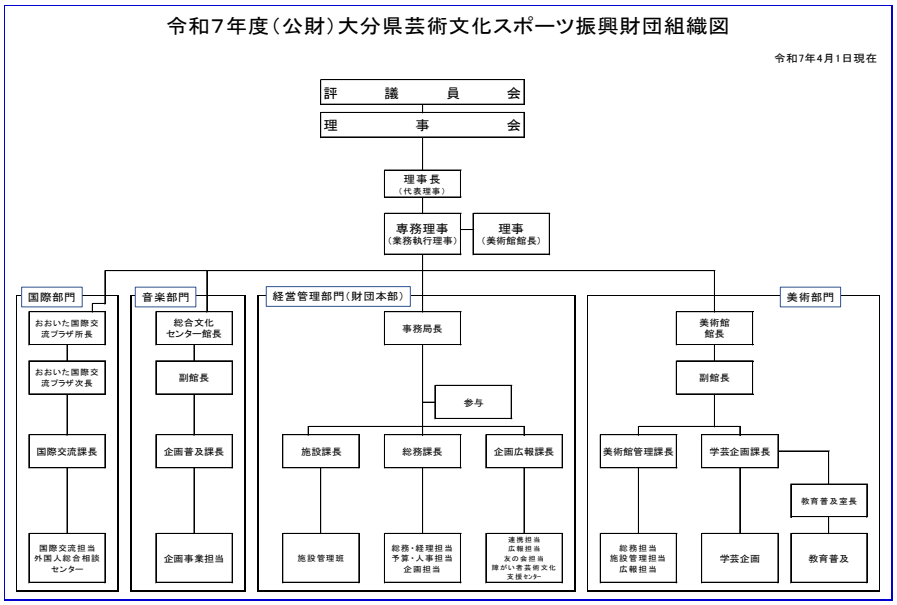
	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用料金（千円）	令和4年度	24,317	15,852	17,205	21,098	14,464	19,058	
	令和5年度	8,786	7,169	7,306	8,649	7,227	8,310	
	令和6年度	25,747	12,042	16,664	20,183	16,111	17,484	
	令和7年度	40,070	20,064	20,129	21,102	17,142	21,114	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和4年度	21,697	18,817	17,228	14,047	10,627	17,472	211,882
	令和5年度	6,434	6,785	5,423	6,137	4,214	7,407	83,847
	令和6年度	18,254	23,029	19,119	12,341	14,543	14,906	210,423
	令和7年度	21,166	16,706	16,860	13,380	14,775	17,741	240,250

【県立美術館】

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
利用料金（千円）	令和4年度	4,924	2,330	4,076	1,067	2,014	1,799	
	令和5年度	4,188	1,884	3,857	1,668	2,122	5,911	
	令和6年度	5,164	1,662	3,293	3,502	8,292	3,983	
	令和7年度	7,258	3,530	3,146	4,015	11,119	3,983	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	令和4年度	7,072	1,998	3,764	3,237	8,274	5,846	46,401
	令和5年度	6,101	2,257	2,395	1,836	2,009	7,409	41,637
	令和6年度	6,375	2,498	3,342	3,013	8,998	6,234	56,356
	令和7年度	7,808	2,690	3,066	4,452	10,738	12,551	74,357

１０．指定管理者の管理体制

施設管理体制



職員数（R7.4.1）	正規職員	パート	嘱託	県から派遣	契約職員	その他		合計
	13			10	26	2		51

１１．適正な管理運営に係る主な取組内容

職員の資質・能力の向上	① 財団主催の研修会のほか、外部で開催されるものも含めた各種研修会を活用することにより各職員の職務職責に応じた能力を養成した。 ② 「職員面談」や「能力評価」「業績評価」を実施して職員の努力や成果を反映することで職員の士気向上を図った。 ③ 各所属における業務内容を精査した上で、「職員面談」や「能力評価」「業績評価」により、職員の適正配置や効率的な組織づくりに努めた。 ④ 衛生委員会を定期的に開催するとともに、職員の定期健康診断を実施した。 ⑤ 「働き方改革」に対応した労働環境の整備として「出退勤管理システム」を活用して、超勤の抑制及び有給休暇の取得推進に努めた。 ⑥ 県の規程改定に準じて、財団規程の改定を実施し、正規職員及び契約職員の給料及び手当の改定する処遇改善を行った。
防災に関する研修・訓練	① 図上訓練や新人職員研修を行うとともに、職員以外の委託業者等関係者も参加し、実態に即した防災訓練を実施している。また、センターでは複合施設管理者による合同訓練も実施した。 ② 火災や台風などの自然災害をはじめ、不審者（物）、感染症など、様々なリスクに迅速かつ的確に対応するため、危機管理体制を整えるとともに、日頃から危機管理意識を高められるよう職員に対する研修を行った。 ③ 美術館では防災訓練に併せてAEDの操作などを内容とする救命講習を実施し、実際の発症者が生じた際にも、慌てることなく対応し一命を取り留めるなど、来館者や職員の緊急時に対応できる能力の向上を図った。

安全対策等	【iichiko総合文化センター】 ① 中ホール女子トイレ排水管漏水修繕、空調設備の更新、会議室のカーペット張替修繕等、利用施設の修繕を行った。 ② 備品台帳により備品を適切に管理した。 ③ 植栽等の維持管理業務については、ホール、アトリウムに配置した自然木への潅水、施肥、剪定、枯葉撤去等を行い、適正に管理した。 ④ 清掃業務については、施設利用の快適さと美観の保全のため専門業者による清掃を日常的に行った。 ⑤ 保安警備業務については、防災センターを中心とした保安体制により、施設内の秩序を維持し、利用者の安全を守った。 【県立美術館】 ① 的確な保守点検により施設、設備の正常な性能を維持するとともに、県との連携により、不具合箇所の確認を継続して行い、安定した展示環境、収蔵環境の確保に努めた。 ② 備品については、備品台帳により、適切に管理した。 ③ 植栽等の維持管理業務については、美術館の美観維持のため、定期的な植栽等の管理を行った。 ④ 清掃業務については、美術館としての快適な空間、適切な収蔵環境や展示環境を保つため、高い仕様の清掃業務を行うほか、総合的有害生物管理（IPM=Integrated Pest Management）により、生物的防除、化学的防除、物理的防除等を徹底した。特に、美術館管理を行なう上で関係者全員の意識統一が必要となるIPMについては、財団だけではなく、警備等の委託業者も含めて一体的な研修を実施した。 ⑤ 保安警備業務については、夜間の機械警備に加え、24時間常駐の警備員を配置することで、徹底した警備体制を整え、事故、盗難等を未然に防いだ。